

**研究成果展開事業
大学発新産業創出プログラム(START) 大学・エコシステム推進型
スタートアップ・エコシステム形成支援**

2022年度採択プラットフォーム

本予算 中間報告書

**「Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-
ecosystem
～PARKS～」**

2024 年 12 月 10 日

I. プラットフォーム名、主幹機関、共同機関 等

プラットフォーム名	Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem (PARKS)
主幹機関	九州大学 【総括責任者】 総長／学術研究・産学官連携本部 本部長 石橋 達朗 【プログラム代表者】 副理事／学術研究・産学官連携本部 本部長補佐・教授 大西 晋嗣 九州工業大学 【総括責任者】 学長 三谷 康範 【プログラム代表者】 理事／副学長 中藤 良久
共同機関	株式会社 FFG ベンチャービジネスパートナーズ、長崎大学、北九州市立大学、佐賀大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学、九州産業大学、久留米大学、第一薬科大学、福岡大学、福岡工業大学、山口大学、立命館アジア太平洋大学、沖縄科学技術大学院大学学園
評価対象の活動期間	2022年7月1日～2024年6月30日

II. 活動の概要

PARKS は、オール九州・沖縄圏が一体となり、アジアとつながるスタートアップ・エコシステムの創出を目指す。年1回以上のシンポジウム開催、国内および台湾やシンガポールでのイベント出展、九州・大学発ベンチャー振興会議に PARKS の全メンバを所属させる等で、九州・沖縄圏にとどまらずアジアの産官学金のエコシステムとの接続を可能とし、以下の2つのビジョン達成を目指している。

PARKS としては、以下の課題を抱えており、それらを克服するために以下の2つのビジョンを掲げている。

- 各大学で定常的に十分な起業案件数の獲得が困難である一方、起業の支援には多様な人材、資金、スキル、ノウハウの確保が必要であり、一大学でスタートアップ支援体制を維持するのは困難なため連合体で質の高い支援を実現する必要。
- PARKS 参画大学は物理的に離れているため、密なネットワークの構築が困難。
- 地理的特徴を生かし、台湾やシンガポールのエコシステムとの接続を実現する。
- 持続可能な運営モデルの確立

【ビジョン1】運営機関が中心となり、PARKS インターユニバーシティを設立。連合によるスタートアップ支援部隊の整備や独自の POC ファンド運用を目指す。

【ビジョン2】アジアと連携し、世界で活躍できる大学発スタートアップを創出する。

それらを実現するために令和8年度末までに①PARKS から155社の起業の達成。②12,000人/年のアントレプレナーシップ教育の受講者数を目指しており、現時点で①については21社の起業の達成、②についてはすでに15,399人/年の受講者数を達成し、目標を達成している。

III. 活動内容と成果

1. スタートアップ・エコシステム拠点都市として目指すビジョンに対する貢献

PARKSは、福岡市、北九州市という2つのスタートアップ・エコシステム拠点都市を核に活動を行っている。

- ① 福岡市拠点：リーダー都市として成長都市のロールモデルとなるために、これまでの取組みに加え、コンソーシアムを通じた連携や、新たな支援施策によりユニコーンを生み出せるエコシステム構築を目指しており、

KPIとしてユニコーン5社、10億円企業100社を掲げている。

- ② 北九州市拠点：環境・ロボット・DX等の分野を中心にSDGs先進都市となるべく、強みの「環境・ロボット」分野を核に、テック系スタートアップ・エコシステム拠点都市を形成していく。スタートアップの力で北九州市から世界のSDGsの実現に貢献することを目指しており、KPIとしてユニコーン1社、市内スタートアップ100社、スタートアップビザ活用20件を掲げている。

PARKSは上記スタートアップ・エコシステム拠点都市のビジョンに貢献することを目指し、オール九州・沖縄圏が一体となり、アジアとつながるスタートアップ・エコシステムの創出を目指す。また、拠点都市である福岡市、北九州市、および九州・大学発ベンチャー振興会議との密な連携のもと、アントレプレナーシップ教育から起業支援までを一気通貫で実施し、令和8年度末までに、PARKSインターユニバーシティ設立を目指し活動する。さらに、経営人材候補を学生やポスドクのみならず九州・沖縄へのUIJターンを促進しながら確保する仕組みを構築する。

2. 起業活動支援プログラムの運営

PARKSは、各大学の強みを持つ、「ロボティクス」「環境・食・海洋」「AI/IoT」「材料・素材」「医療・ヘルスケア」分野を軸とした、顧客志向で業界改変を実現可能なベンチャーを九州・沖縄圏という地域に持続的に創出していく。PARKSではシーズの発掘にも力を入れており、令和5年度も九州・大学発ベンチャー振興会議への情報共有等も兼ねて、シーズの発掘を行い、100件以上の起業シーズの発掘を行った。さらに、九州・大学発ベンチャー振興会議を通じて、産業界からR3～R5の3年間で計78件のシーズに総額6800万円（内PARKSに採択されたシーズは12件）の寄付を獲得している。また、令和4年度GAPファンド、GAPNEXTに採択されたシーズを中心に、OISTを窓口にもジョージワシントン大学が実施するリーンローンチパッドプログラムに4チーム20名（事務局8名含む）が参画し、海外展開を志向したビジネスモデル案の作成とヒヤリング調査を開始している。一方、PARKSでは起業支援人材育成にも力を入れており、継続して起業支援人材育成にも注力している。

今後は、以下を推進していく予定である。

- ・ プレCxOマッチングシステムにより経営人材の量の確保はある程度進んだので今後質の担保を行うための評価システム等も開発していく。
- ・ ジョージワシントン大学と連携し海外展開可能なインキュベーションプログラムを開始したが、今後台湾・シンガポールでのプログラムも開始する。
- ・ 持続可能なPoCファンドのスキームを引き続き構築する。

3. アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営等

PARKSのアントレプレナーシップ教育が描く未来像として、下記の目指す姿（ビジョン）を設定した。

PARKS参画大学の各々の特色に合ったアントレプレナーシップ教育を実施できる環境が構築され、九州・沖縄圏全域の学生がアントレプレナーシップ教育を受講することで、起業家的な思考・知識・行動様式を身につけ、社会に新しい価値を生み出している状態。

このビジョンを達成するために、さらに以下の2つの目標を設定している。

1. 令和8年度末までに、PARKSの全ての大学でアントレプレナーシップ教育を実施する。
2. 令和8年度末までに、PARKS全体でアントレプレナーシップ教育の受講人数として、年間12,000人を目指す。

PARKS開始前のPARKS参加大学のアントレプレナーシップ教育の総受講人数は4,084人（PARKS開始前の令和2年度末のデータ）であり、この4分の1程度は九州大学のアントレプレナーシップ教育による受講生の人数であったが、令和5年度末時点ではPARKSに参加する全ての大学がアントレプレナーシップ教育に取り組んでおり、シンガポールや台湾のアントレプレナーシップ教育プログラムに派遣するなど、その総受講者数は15,399人（令和5年度末）となっている。そのため、令和8年度末までに達成予定であった上記の2つの目標に関しては、既に達成している状況である。量的目標はすでに達成しており、今後はアントレプレナーシップ教育の裾野を拡

大に加えて、より社会に新しい価値を生み出していくための教育の質も高めていく必要がある。

今後の取組みとしては以下がある。

- ・ 質向上を目指し教育者の育成(FD)の強化や、優れた海外の大学との教育連携を強化する。
- ・ 博士課程の学生などの優れた人材に、アントレプレナーシップ教育に参加してもらうことで、より社会実装に近いレベルの教育プログラムを構築。
- ・ シンガポールや台湾でのアントレプレナーシップ教育も開始したが、今後は、さらに連携対象を拡大ともに、小中高校生等へのアントレプレナーシップ教育も強化していく。

4. 起業環境の整備

各大学およびキャンパスにあるインキュベーション施設、オープンスペース等の新設・改修を進め、産学連携・アントレプレナー拠点を形成していくことを目指し、機能面では、学生や研究者がアントレプレナーシップ教育を修学課程のなかでスムーズに受講でき、習得する知識とスキルを試せる「場」があり、起業に必要な情報やネットワークを共有する「場」があり、商材の開発に必要な設備・装置をオペレーションのサポート付きで利用できることを目指している。

上記の実現を目指し、

- ・ SlackやBoxを活用した、参画機関全体での情報共有プラットフォーム等の整備。
- ・ PARKSイノベーションコミュニティやPARKSアーカイブシステム等によるリアルとバーチャルのハイブリットで連携可能なプラットフォームの基本システムを開発し、コンテンツ整備を推進中。
- ・ 起業に必要な諸ルールの洗出しと各大学の方針に沿った規則整備を可能とする勉強会やガイドラインの整備を推進中。
- ・ 「PARKSアントレプレナーシップ人材育成プログラム」の受講のモチベーションを高めるべく、プログラムの受講完了を証明するデジタルオープンバッジシステムの導入が、PARKSの一部機関で完了しており、試行をしつつPARKS全体への展開を検討していく。

5. 拠点都市のエコシステムの形成・発展

インターユニバーシティ型のプラットフォーム運営を志向し、4つの運営機関による毎週の運営会議、月1回以上の全体会議、個別課題に対するWG等の実施によりPARKS機関全体で連動した運営実現への挑戦中である。また、2つの拠点都市のエコシステム形成・発展と、それをロールモデル化しPARKSプラットフォーム全域へ展開することを目指しているだけでなく、PARKSの主要参加機関が参画し、九州圏の産官学金が一丸となって大学発ベンチャーを振興する組織である、九州・大学発ベンチャー振興会議との密な連携のもとエコシステムを形成していくことを目指している。また、国内外の多様なベンチャーキャピタルやアクセラレータとのネットワークの構築も進めている。さらに、アジアにつながるエコシステムを実現すべく、台湾でのInnoVEX、シンガポールのSwitchで出展等を行った。これらのPARKSの取組みを社会に周知することを目指し、年1回シンポジウムを開催している。